

これまでに出された意見の整理



諮問	2頁
本市小・中学校を取り巻く現状と課題	2頁
これまでに出された意見	3頁
A 授業や学習活動	3頁
① 意見の抜粋	3頁
② 意見の集約	5頁
③ 要点の整理	6頁
B 人間関係や教科外活動	7頁
① 意見の抜粋	7頁
② 意見の集約	8頁
③ 要点の整理	9頁
C 学校経営・運営	10頁
① 意見の抜粋	10頁
② 意見の集約	12頁
③ 要点の整理	13頁
D 地域・保護者との関わり	14頁
① 意見の抜粋	14頁
② 意見の集約	16頁
③ 要点の整理	17頁
E 通学区と行政区	18頁
① 意見の抜粋	18頁
② 意見の集約	19頁
③ 要点の整理	19頁
F その他	20頁
① 意見の抜粋	20頁
② 意見の集約	20頁
③ 要点の整理	20頁

諮 問

少子人口減少社会が進展する中で、少子化に対応して 子どもにとって望ましい教育環境の在り方

本市小・中学校を取り巻く現状と課題

- 全校で99人以下の小学校が11校(20.4%)、中学校が7校(29.2%)
- 全校で11学級以下の小学校が22校(40.7%)、中学校が9校(37.5%)
- 将来人口推計によると2060年の15歳未満人口は2010年の41%、
中山間地では同じく27%
- 「自立した18歳の育成」を目指した教育を推進
- 通学区と行政区が一致しないところがある
- 本市の公共施設のうち33.5%が学校(公共施設を現状のまま維持できない)
- 学校施設は、今後、学校施設長寿命化計画に基づく計画的な老朽化対策を推進
- 学校施設は学校教育以外にも役割がある(災害時の拠点・社会体育の活動場所など)

これまでに出了された意見

A 授業や学習活動

《① 意見の抜粋》

A 授業や学習活動

No.	意見(抜粋)	委員会
3	小規模校では、先生方が子どもと密になって細やかに見ていただけるので有難い。先生方も余裕を持って仕事ができるのではないか。	1
4	大規模校はクラスにいろいろな子どもがいて、先生が一人ひとりに向き合う時間が少なさそうに感じる。	1
5	人口が減少し、児童生徒数も減少する中で、学級数や児童生徒数に軸足を置いて学校の適正規模の基準を決めると、どこまでいってもイタチごっこになってしまう。学校の適正規模をどのように考えていくのか、小規模ではいけないのかということ併せて議論していかなければいけない。	1
19	複線型ネットワークは非常に重要であり、社会と個人の関係では今後きちんと議論する必要がある。	2
35	児童が減っていく中で、児童を増やすことが大事なのか、今いる児童を活力ある学校で育てることが大事なのか。	2
38	0歳から18歳までの発達段階に応じた教育環境を用意したいということで、小さな学校が月1回あるいは週1回外部との交流を行うというのは、必要だから行っている。	2
40	発達段階に応じた遊びや学びがあり、子ども達が気づかぬうちに意欲とか学力とかがついてくるといい。	2
41	遅れ気味の子に対して、タブレットを利用した支援ができるような体制を整えることも必要。	2
44	活力については、学校の教育の質を考えたとき、発達段階に応じた見方をしなければいけない。小学校の低・中学年とそれ以上の子ども達にとっての学校の活力の質は違う。	3
48	学力など学校の授業をきちんとやるという点では、中山間地域での少人数教育は効果があるだろう。しかし、クラスの中で机が二つしかないような状況で6年間生活したらどうなるのか。そのような観点も必要だ。	3
50	小学校の高学年では専門的な学力を育成することが大事だが、小規模校では教員が少ないので、専門的な教員が少ない場合もある。中学校は専門的な先生になるので授業が違ってくる。それが中1ギャップにつながることもあるので、学力的な連携をどのように考えていくのかが大事ではないか。	3
57	子ども達にとって豊かな学びの環境を考えた時、幼い時期は、安全・安心、地域の見守りの中で子どもが育つこと、通学距離の問題などが優先されるべきだ。大きくなるにつれて、学びの質の中身として優先されるべきものは、集団の中で学ぶこと、その中で培われる社会性や自立性などが保障されることである。そのような質の変化があることを前提に考えていかなければならない。	4
60	子ども達にとって一番いい規模、教育環境、教員数も含めた問題を柱にしていかなければ、地域のエゴが出てしまう。	4
64	芋井小など少人数のところは先生が目が行き届きやすいが、皆で共同作業ができないのではないか。授業でも鍋屋田小は4人でグループをつくり、議論をし、その後発表する機会があったが、小規模の学校は皆の意見を聞く機会が少なく、かわいそうに感じた。櫻ヶ岡中の合唱も、たくさん生徒がいるから混声合唱ができるのであり、小規模校での指導の難しさを感じた。	6
71	子ども達が1学年2、3人と少ないことは、一人一役で責任を持って授業をやることなのかなと感じた。鍋屋田小では、先生の指示で授業を行うのではなく、先生に助けていただきながらやっていく姿勢が見られた。	6
76	子ども達、保護者、地域の方や先生にとって一番いいバランスの人数がどれくらいなのか。合併ありきでなく、学年何人で子どもがどうなったとか、関われる人数は何人がいいとか、そんな視点で1校当たりの規模を平均化できるといい。	6
78	小規模校は交流や多様な意見・人材が課題で、ふれあいの中から学び取る機会が少なくなりがちである。交流が一つのキーワードだとすると、音楽会や運動会などの行事を、同じような規模の学校と合同で、持ち回りにより実施することは出来ないか。	6
79	子ども達が大人数の中で学習することのよさと、少人数の中で学習することのよさがある。	6

No.	意見(抜粋)	委員会
81	教科全てを一緒にすることはできないが、音楽や芸能など、毎日でなくともできるものはあると考えている。	6
82	昔は、鬼無里・戸隠・芋井で、運動会や音楽会などの行事を当番制で行っていた。このような行事を小規模校同士で行い、交流していく必要があるのではないか。	6
87	今は様々なソフトやタブレット等の機器があるので、それらを利用するのも(教育ギャップ解消の)一つの手段だ。	6
89	交流においては、ICTを利用するだけでは解消しきれない部分もある。ICTは人間味のある本当の交流にはならない。	6
90	新しい学校の枠組みを考えるべき。既存の枠組みだけでは限界がある。学校の活力とは何なのか、子ども達にとっての教育の質とは何なのか、そこに立ち戻って考える必要がある。	6
91	発達段階に応じた教育の質の違いということに着目した時、たとえば、年齢の低い子ども達にとっては、デメリットがあっても通学時の安心・安全、居場所、あるいは地域とのつながりが優先されるべきだという考えがあると思う。中学生になった時は、社会性や専門的な学びなど、自立して多様な経験をすることが優先されるべきだと思う。	6
92	今までとは違う形で学校の枠組みをつくれぬか。10歳くらいまで、「つ」のつく年齢までは学校が家の近くにあるべきだと思うが、それ以降は新しい枠組みをつくっていく必要がある。	6
93	小学校3年生くらいまでは住んでいる地域で子どもを育て、人数が減っても今までどおりの小学校の体制で育てる。小学校高学年から中学生は、社会集団の中で教育する必要がある。	6
97	小規模校の児童生徒数が少ないということが一番の問題だ。体育や音楽など、ある程度の集団が必要である部分はクリアできない点である。児童生徒を集める努力をしなければいけない。	6
99	学校の適正規模は何人なのかという点は難しいところだ。	6
104	ICTについては交流だけではなく、つまずいた子ども達への支援等が必要。例えば、算数等つまずいてしまった子ども達の自宅等へ貸し出しができれば良い。	7
105	NPOや大学生等のサポートなど個別指導を受けることが出来ない場合にICTを利用できないか。	7
138	長野市という大きな自治体で、多様性のある学校のあり方を考える時に、子ども達が小・中学校と9年間育っていくそのまつまり、中学校区とその外側とのつながりを考えつつ、二戸市の学区経営という考え方、これを学校が自立的にそれぞれの学区ごとに、この学区は今後どのような学校のあり方をしていけばいいのか、考えていく場が必要なのかなと感じた。	8

A 授業や学習活動

《② 意見の集約》

A 授業や学習活動

No.	意見(集約)	抜粋意見No.
(1)	<u>小規模校では、子どもと先生が密になって細やかに、先生方も余裕を持って仕事ができるのではないかと。大規模校はクラスにいろいろな子どもがいて、先生が一人ひとりに向き合う時間が少なそうに感じる。</u>	3、4
(2)	<u>子ども達が大人数で学習することのよさと少人数で学習することのよさがあり、適正規模は何人という点は難しい。しかし、子ども達にとって、望ましい規模を教員数を含めて、何人くらいで子ども達が、どんな学習ができるか、関わる人数を何人が望ましいかというような視点で考えたい。</u>	5、35、48、60、76、79、99
(3)	<u>既存の枠組みにとらわれず、発達段階に応じた新しい枠組み、教育環境を考えたい。</u>	19、38、40、90、138
(4)	<u>いろいろな学習支援においてICTを活用することも有効ではないか。</u>	41、87、104、105
(5)	<u>小学校の低・中学年とそれ以上の子ども達にとっての学校の活力の質は違う。</u>	44
(6)	<u>小学校高学年からは専門的な学力を育成することが大事だが、小規模校では教員が少ないので、専門的な教員が少ない場合もある。中学校は専門的な先生になるので授業が違ってくる。それが中1ギャップにつながることもあるので、小学校高学年から中学校にかけての学力的な連携を考えていくことも大事ではないか。</u>	50
(7)	<u>幼い時期、「つ」のつく年齢、小学校中学年ぐらいまでは、安全・安心面からも、住んでいる地域の見守りの中で子どもが育つこと、通学距離の問題なども優先されるべきだ。小学校高学年から中学生は、学びの質の中身として集団の中で学ぶこと、専門的な学びや多様な経験を優先し、その中で培われる社会性や自立性などが保障されることが大事ではないか。</u>	57、91、92、93
(8)	<u>少人数のところは先生が目が行き届きやすいが、皆での協働学習や共同作業に困難さがあるのではないかと。授業でも、4人でグループをつくり、議論をし、その後発表する機会が大切である。人数が少ないと皆の意見を聞く機会が少なく、望ましいとは言いにくい。</u>	64
(9)	<u>児童生徒数が少ないと、体育や音楽等、ある程度の集団が必要な学習ができない点がある。たくさん生徒がいる中学では混声合唱ができるが、生徒数の少ない学校では難しさがある。</u>	64、97
(10)	<u>子ども達が2、3人と少ないと、一人一役で責任を持って学んでいると感じたが、交流や多様な意見・人材が課題で、ふれあいの中から学び取る機会が少なくなりがちである。20～30人いる学級では、先生の指示で授業を行うのではなく、先生に助けをいただきながらやっていく学習意欲あふれる姿勢が見られ、望ましいと感じた。</u>	71、78
(11)	<u>以前、小規模校同士で運動会や音楽会などの学校行事を当番制で行っていたが、このような交流を合同や持ち回りで進めていく必要もあるのではないかと。</u>	78、81、82
(12)	<u>ICTの利用は人間味のある本当の交流にはならないのではないかと。</u>	89

A 授業や学習活動

《③ 要点の整理》

A 授業や学習活動

No.	要点	集約意見No.
【発達段階に応じた学び】		
A1	発達段階に応じた新しい枠組み、教育環境を考えたい	(3)
A2	いろいろな学習支援においてICTを活用することも有効ではないか	(4)
A3	小学校低・中学年とそれ以上の子どもにとっての学校の活力の質は違うのではないか	(5)
A4	小学校高学年から専門的な学力の育成が大切ではないか	(6)
A5	中1ギャップに対応するために、小学校高学年から中学校にかけての学力的な連携を考えることも大事である	(6)
A6	「つ」のつく年齢(小学校中学年まで)は集団も大切だが、家庭のある地域の見守りの中で育つこと、通学距離の問題も配慮したい	(7)
A7	小学校高学年以上では集団の中での学び・専門的な学びや多様な経験が大切で、その中で培われる社会性や自立性などを保障したい	(7)
A8	ICTの利用は人間味のある本当の交流にはならないのではないか	(12)
【発達段階に応じた学びを実現するための規模】		
A9	小規模な学校では先生が子どもと密になり細やかにみていただける	(1)
A10	大規模校は先生が一人ひとりに向き合う時間が少ないのではないか	(1)
A11	少人数で学ぶよさと大人数で学ぶよさがある	(2)
A12	適正規模の基準を決めることは難しいが、望ましい規模を学習面や教員配置の面からも考えたい	(2)
A13	小規模校では教員の数も少なく、専門的な教員が少ない場合がある	(6)
A14	少人数では協働学習や共同作業に困難さがある	(8)
A15	4人程度のグループでの議論の後、学級で発表し他者の意見を聞く学習が大事ではないか	(8)
A16	音楽や体育は、ある程度の人数・集団が必要ではないか	(9)(11)
A17	小規模な学校では子どもが一人一役で責任を持って学んでいる	(10)
A18	小規模校ではふれあいの中から学び取る機会が少ないのではないか	(10)
A19	20から30人いる学級では、自発的で学習意欲あふれる姿勢が期待できる	(10)

B 人間関係や教科外活動

《① 意見の抜粋》

B 人間関係や教科外活動

No.	意見(抜粋)	委員会
1	小規模校だとやりたい部活ができないのがかわいそう。	1
14	小規模校では、幼稚園から中学校まで関わる人がほとんど同じ人になる。そうした中で、社会においてどのように子どもを伸ばしてあげるかがすごく大事になってくる。	1
18	「活力ある学校」とは、児童生徒に元気があること。子どもが得意なことを自由に行う活動の中から学びを得られること。それを実行できることが「活力ある学校」だ。学校そのものにも活力がなければならない。	2
21	鬼無里で小中一貫した教育を進めるのは、集団規模の確保、異学年交流授業・体験が大きな要因だ。	2
22	小学1年生から中学3年生まで全員が奥裾花自然園奉仕活動に参加して、共同学習・実習を行った。また、鬼中祭において小中合同音楽会を行う。これらは「活力ある学校づくり」につながっている。	2
25	活力とは、一つは子ども同士の豊かな関係、教師同士が育つ関係、もう一つは子どもと教師がいる学校と地域、保護者、家庭との関係。よく使われる言葉でいうとソーシャルキャピタルがある。	2
26	ソーシャルキャピタルとは社会関係資本、分かりやすくいえば人と人との関係、これはC学力で育てるものとする。	2
27	2学級が1学級になり、小さなトラブルが起こる状況もある。担任と子ども達だけの関係では煮詰まってしまう、いろんな問題が起こる。特に小学校4年生以降、多感な思春期に入った子ども達の集団の在り方はとても難しく、小学校4年生から6年生が単級の学校の場合は非常に難しい。	2
28	学校でも工夫し、教科担任制のような形で担任を入れ替え、多くの教師が関わるように取り組んだり、地域の方々による読み聞かせなど多くの大人との関係をつくったり、縦の異年齢交流もいろいろな活動を行っているが、それでも限界がある。	2
29	鍋屋田小学校は中学校も複数に進学するため、小・中との連携も難しい。また、30近くの幼稚園や保育園から入学してくるため、幼保小との連携も難しい。	2
32	小規模な小・中学校は、大きな本校へ行くときのギャップが非常に大きい。今までは小規模の中で何でも出来ていたし、地域の方もとても協力的だったが、大きな集団に入ると、そこで自分が否定されたと受けとめる子もいる。	2
39	ルールを守ってきちんと座って学び、きっちり自分のものにする時間と、友達と気に入った場所で遊ぶ時間がある。友達との遊びの中に学びの勉強もあり、気付きの勉強もある。友達と一緒に外で遊べる環境が40、50年前と比べるとなくなっている。	2
66	少人数の学校のよさは、一人ひとりの子どもが先生とコミュニケーションをとりながら理解を深めることができる点だが、周囲を見ながら自分を評価することが出来るのか心配である。	6
67	芋井小は3人で活動しており、自分の視野の中で自分の勉強をしているが、鍋屋田小では自分と周囲の友達を比較しており、この相互学習こそが子どもにとって大事である。	6
69	子どもの数をどうこうすることはできないが、与えられた条件の中で、相互交流・相互評価しながら自己評価することが、子どもにとって大事である。	6
70	芋井小は人数が少ないことがかえって良いのではないかと。大規模校では同じ学年同士で遊ぶが、小規模校では年上の子が年下の子の面倒を見ることができる。これが利点だ。	6
73	小規模校は先生が目が届くという点でいいかもしれないが、子ども達が大きな集団になれないのは、子どもの成長の中で大きなデメリットだ。中学・高校と大きな集団に入っていく中で、環境の差が大きい。	6
74	ある程度の規模の学校なら部活動等でも先輩後輩の関係など様々なものが学べるのに対し、小規模校ではこのような経験ができないのは非常にかわいそう。	6
94	小学校低学年の段階で2～3人の学級になる場合どうするのか、何かよい方法がないか考える必要がある。小学校3年生までは、たとえ1人でも教育的効果があるならよいが、この点が非常に分かりにくい。	6
95	小学校1年生から4年生ぐらいまでの間においても1人ではなく、やはり関わりの中で育てた方がいい。複式学級による縦のつながりや地域とのつながりをつくった方がいい。	6
137	子ども達の年齢・発達段階ということもあると思うが、子ども達が健全に成長していくためには集団での学びが必要であると感じた。集団をどう保障してやれるか、例えばICTなのか、五ヶ瀬町のように集まるという手段なのか、統廃合なのか、手立てはそれぞれあるだろうが、集団で学ぶという機会を奪ってはいけなさと改めて感じた。	8

B 人間関係や教科外活動

《② 意見の集約》

B 人間関係や教科外活動

No.	意見(集約)	抜粋意見No.
(13)	ある程度の規模の学校なら部活動等でも先輩後輩の関係など様々なものが学べるのに対し、小規模校では、このような経験や子どもが望む部活動ができない環境でよいのか。	1、74
(14)	小規模校では、幼稚園から中学校まで関わる人がほとんど同じ人であり、限界がある。	14
(15)	発達段階に応じて、友達との遊びの中に気づきや学びがある。そのような中で、子ども達は気づかぬうちに学ぶ意欲とか態度や人間性等の学力を育んでいる。	18、39
(16)	小中一貫した教育は、集団規模の確保や異学年交流授業・体験ができる。共同学習・実習や小中合同音楽会などは「活力ある学校づくり」につながるものと思っている。	21、22
(17)	子ども同士の関係、教師同士の関係、子どもと教師の関係、学校と地域・保護者・家庭との関係など、学ぶ意欲や態度、人間性等を育むための、好ましい人間関係づくりの力が育まれる集団環境が大事ではないか。	25、26
(18)	多感な思春期に入った子ども達の集団の在り方はとても難しく、小学校高学年が単級の学校の場合は、集団づくりの難しさが大きい。	27
(19)	小規模な学校では、担任を入れ替え、多くの教師が関わるように取り組んだり、地域の大人との関係をつくったり、異年齢交流の活動など、様々な工夫をしているが限界もある。学級1人ではなく、関わりの中で育てたい。2～3人の学級においても、複式学級による縦の関わりや地域との関わりにより工夫できるのではないか。	28、94、95
(20)	複数の中学校に進学する小学校においては、小中連携の難しさがある。また、30近くの幼稚園や保育園から入学生がいる小学校では、幼保小との連携にも難しさがある。	29
(21)	小規模な小学校で学んできた子ども達が、大きな中学校へ行くことは、中1ギャップの一つにつながっているのではないか。	32
(22)	小規模校では、一人ひとりの子どもと先生とのコミュニケーションが容易で目が届き易かったり、年上の子が年下の子の面倒をみたりという点でいいかもしれないが、子ども達が大きな集団になれないのは、子どもの成長の中で大きなデメリットだ。社会集団の中で、周囲を見ながら自分を評価することが出来る力を育むことができるのか心配である。学年があがるにつれ、中学・高校と大きな集団環境が大事になるのではないか。	66、70、73
(23)	人数が少ないと、例えば3人で活動しており、自分の視野の中だけで学んでいるが、20～30人いる学級では自分と周囲の友達と、互いに学んでいる。このような学びが大事であり、相互交流・相互評価しながら自己評価することが、子どもにとって大事である。	67、69
(24)	子ども達が健全に成長していくためには、集団での学びが必要であると感じた。集団を保障する手立てはいろいろあるだろうが、集団で学ぶという機会を奪ってはいけないと改めて感じた。	137

B 人間関係や教科外活動

《③ 要点の整理》

B 人間関係や教科外活動

No.	要点	集約意見No.
【発達段階に応じた学び】		
B20	発達段階に応じて友達との遊びの中に気づきや学びがあり、その中で子どもたちは気づかぬうちに学ぶ意欲・態度・人間性等の学力を育てている	(15)
B21	小学校4年生まででも、一人ではなく、関わりの中で育てたい。複式学級による縦の関わりや地域との関わりが工夫できるのではないか	(19)
【発達段階に応じた学びを実現するための規模】		
B22	子どもが望む部活動ができるようにしたい	(13)
B23	小規模校では、保育園から中学校まで関わる人がほとんど同じであり、限界である	(14)
B24	小規模校では、多くの人と関わられるように、小中合同音楽会や異年齢交流など様々な工夫をし、活力ある学校づくりに努めているが、限界も感じる	(16)(19)
B25	人間性等を育むための、好ましい人間関係づくりの力が育まれる集団環境が大事ではないか	(17)
B26	多感な思春期に入った子どもたちの集団の在り方はとても難しく、少なくとも小学校高学年以降は、学年に複数の学級が望ましい	(18)
B27	小規模な学校で学んだ子どもが大きな中学校へ行くことが、中1ギャップの一つになるのではないか	(21)
B28	小規模校で年上の子が年下の子の面倒を見たりすることはメリットである	(22)
B29	小規模校で大きな集団をつくれなことは子どもの成長の中でデメリットになる	(22)
B30	少人数の学級では、周囲を見ながら自分を評価する力を育むことができるか心配である	(22)
B31	学年があがるにつれ、中学校・高校と大きな集団環境が大事ではないか	(22)
B32	20から30人の学級では、自分と周囲の友人と、互いに学んでいる	(23)
B33	相互評価しながら自己評価することが大切になる	(23)
B34	子どもたちが健全に成長するためには集団での学びが大事ではないか	(24)
【地域との関わり】		
B35	地域によっては小中連携や幼保小の連携にも難しさがある	(20)

C 学校経営・運営

《① 意見の抜粋》

C 学校経営・運営

No.	意見(抜粋)	委員会
2	学級数が減るとPTAの役員を何回もやらなければいけなくなるので保護者の負担が大きくなる。	1
51	子どもの数が少なくなり、中学校の教室が大分空いてきている。小学校、保育園、老人宿泊施設等も併設したらどうか。	4
59	学校教育、15歳までの教育だけで子どもの教育を閉じる時代は終わった。そこから先、生涯学習を考えた時に、学校教育と社会教育はもっとつながっていくべきである。そうすると、公共施設の複合化につながっていく。様々な学びを子ども達に与えられるような複合化、その核は公民館だと考えている。	4
65	児童数が減り、空き教室が増えている現状の中、学校に様々な機能を持たせる複合化(公民館等)を考える必要がある。地域コミュニティの中で学校を位置づけ、地域の人が学校を使い、児童生徒との交流が生まれてくるということも必要である。	6
68	小規模校になると先生数が少ないので、先生方が自分をどう高め、先生同士で実践交流し、互いのよさをどう学んでいくのかが難しい。	6
75	極端な小規模校では、先生の数や施設の面で経済的な効率の悪さも無視はできない。	6
77	廃校となった小学校等を安い値段で民間にお貸しいただけることはありがたいことだ。	6
85	学校経営という面からは何らかの数字を出していただいた方が参考になる。経営効率がいいか悪いかという問題である。	6
98	小規模校間で移動するよりも、小規模校から市内の大きな学校へ子どもを運ぶ方が効率的ではないか。経費の面など問題はあるが、子ども達の将来的な多様性を育むという観点から、どこか大きな学校に人を集める方がいい。	6
103	学校教育と社会教育の関係についても検討いただきたい。複合化という視点も含めて学校の在り方を検討していただきたい。	6
106	学校教育とはいえ、市費の負担という点で中山間地は恵まれている。	7
107	校外活動に関わる経費については、中山間地の小・中学校は移動に掛かる費用の負担が大きくなっている。	7
108	経費のほとんどが人件費であり、今後、小規模の学校が増えていくことは、市の財政を圧迫することになるため、ある程度歯止めをかけないといけない。	7
109	経費が浮いたからいいのではなく、小規模の学校に掛かる市費を減らすことができれば、他の小・中学校に割り振り、先生の充実を図るべき。先生の負担が非常に大きい中で、先生の負担を減らし、教育を充実させる取組が必要だ。	7
111	施設は皆同じでなく、スタイルを変え、地域を元気にするため、地域の人や様々な団体が関わって使用できる施設にする時代になった。	7
115	子ども一人当たりには掛かる経費は、小規模校では大きく、大規模校では小さい。しかし、子ども達は皆同じ教育を受けなければいけない。そこが重要である。皆が同様に学校のクラブで活動できるようにするには、どうすればよいかを考える必要がある。	7
118	教育の質を考えた時、長野県内全体を見た場合、中山間地では30から40歳台の中核を担う教員がいない。年齢が上の世代か若い世代というのが現状である。学校の組織として考えた時、中核となり学校を引っ張っていく世代が配置されていない。中山間地に行きたいという教員のインセンティブになる手当も伴っていない。	7
119	1教科先生一人となる中学校へ若い教員が行った場合、モデルとなる先生がいないことになる。自分の授業がこれでよいのか、子ども達が力をつけているのかが見えにくい。教員同士の研修機会が少ない中で、子ども達に対する教育の質の保障ができていないのか、単純に給与の面だけでなく見ていく必要がある。	7
120	美術・技術などの兼務の非常勤教員が小さな学校を掛け持ちで回っている。給与も安いのでなかなか手がないという苦しい現状もある。このような人事の問題もどうかカバーするか考えなければいけない。	7
135	学力の保障で3つの時期に分けることは賛成だが、現実には小・中2つに分かれてしまうので、小学校5、6年と中学校1年の間には大きな溝がある。	8

No.	意見(抜粋)	委員会
136	<p>小学校・中学校がどのように連携するかを考える時間、同じ学校にいれば先生方は一緒に考えられるが、現実には小学校・中学校と違う職場にいるので、どうやって教員同士が打合せをするか、先生方にしてみればまた仕事が増えるのではないかなと思う。どこを削るかを教育委員会と一緒に考え、時間を確保してあげないと、理想は理想だが現実にはできないのではないかなと思った。</p>	8
139	<p>学校だけでなく、老人福祉、まちづくり等総合的な視点からのお話があり、自分の地域でもこのようにまとめれば、学校だけでなくまちに活気が生まれるのではないかと希望が湧いた。ただ、大きな長野市の中でどれだけ地域の考えが実現できるか考えると心配な点もある。</p>	8

C 学校経営・運営

《② 意見の集約》

C 学校経営・運営

No.	意見(集約)	抜粋意見No.
(25)	<u>学級数が減るとPTAの役員を何回もやらなければいけなくなるので保護者の負担が大きくなる。</u>	2
(26)	<u>学校教育と社会教育は、もっとつながるべきであり、様々な学びを子ども達が受けられるような公民館等の公共施設や福祉施設等の併設などの複合化や多機能化を考え、地域の人が集い、使用できる施設となるよう考えたい。</u>	51、59、65、 103、111、 139
(27)	<u>中学校で学級数が少なくなると、全教科の教員がそろわなくなり、子ども達の学習保障ができにくくなる。不足教員を兼務の非常勤教員で補っているが、1教科一人では教員同士の研修不足は否めず、子ども達の教育の質の保障ができるのか、心もとない。</u>	68、119、120
(28)	<u>極端な小規模校は、子ども達の学習を保障する教員数をはじめ施設面での経済的な効率の悪さも無視できない。</u>	75、85
(29)	<u>廃校となった小学校等を安い値段で民間にお貸しいただけるとありがたい。</u>	77
(30)	<u>子ども達の将来的な多様性を育むことを考えると、大きな学校に子ども達を集めることが望ましいのではないか。</u>	98
(31)	<u>国や県の教員配置で不足している小規模校には、現在、市費教員を配置している中で、市費負担をみると、子ども一人あたりにかける経費は、小規模校ほど多く、大規模校ほど少なく、小規模校は恵まれている。しかし、子ども達には皆、同じ教育を受けられるようにしなければならない。今後、このまま小規模校が増えていくことは、人件費が市費財政を圧迫するため、ある程度歯止めをかけないといけいない。小規模校にかかる経費を減らし、他の小・中学校に割り振り、充実させる取組も必要ではないか。</u>	106、108、109、 115
(32)	<u>中山間地の小規模校では、移動手段の費用負担が大きい。</u>	107
(33)	<u>長野県全体の教員配置を見ると、小規模校の多い中山間地では、学校を牽引していく30～40歳台の中核教員が、薄い現状がある。</u>	118
(34)	<u>学力の保障で3つの時期に分けることは賛成だが、現実には小・中2つに分かれてしまうので、小学校5、6年と中学校1年の間には大きな溝がある。小・中どのように連携するかを教育委員会と一緒に考え、時間を確保しないと、連携できないのではないか。先生方からすれば、また仕事が増えるということになってしまう。</u>	135、136

C 学校経営・運営

《③ 要点の整理》

C 学校経営・運営

No.	要点	集約意見No.
【発達段階に応じた学び】		
C36	小中連携等を行う場合、教員の負担をどのように減らすかを工夫する必要がある	(34)
【発達段階に応じた学びを実現するための規模】		
C37	PTA役員等の保護者負担も考える必要がある	(25)
C38	学級数が少ないと教員研修等の面で教育の質の保障が難しい	(27)
C39	学級数が少ないと教員の数も少なくなり、学習保障が難しい(特に中学校)	(27)(28)
C40	財政面から、小規模校が増えることはある程度の歯止めが必要ではないか	(28)(31)
C41	子どもの多様性を育むため、大きな学校に子どもを集めることが望ましい	(30)
C42	小規模校にかかる経費を減らし、他の小・中学校に割り振り、充実させる取組も必要ではないか	(31)
C43	中山間地の小・中学校では校外活動に関わる保護者の経費負担が大きい現状がある	(32)
C44	小規模校では学校を牽引するミドル層の中核教員が少なく、学校運営に支障をきたしている	(33)
【地域との関わり】		
C45	公共施設や福祉施設等の併設などの複合化や多機能化を考えていきたい	(26)
C46	廃校になった小学校等を安い値段で民間に貸し出すことはありがたい	(29)

D 地域・保護者との関わり

《① 意見の抜粋》

D 地域・保護者との関わり

No.	意見(抜粋)	委員会
6	小学校、中学校が中心となって地域が発展している。これは市街地でも中山間地でも同じ。	1
10	子どもが何人でもよい教育をしたい。地域に根ざした学校をつくるのが活力ある学校づくりには一番だと考えたい。	1
11	学校と地域が問題を共有し、今ある学校をどうするのかを住民の立場で考えていかなければならない。	1
16	中山間地域では子どもが元気だとその地域も元気がいい。子どもの元気は学校だけでなく地域の活力にもつながる。	1
17	学校が地域に影響を与えることも含めて議論いただきたい。	1
20	少子化が本当に進んでいる地域と、比較的そうでない地域を一緒に議論してよいのか。	2
23	C学力が育っていれば、大人になって生きていく力は身に付く。それは、学校の教室の中ではなく、いろいろなコミュニティの中で蓄えられるものだと思う。	2
24	市内の地域を統一して議論すべきではない。	2
30	市街地の小規模校では、日常の学習を地域に開き、その中でつながりを模索していかないと、活力にもつながりにくい。	2
31	中学校における地域との連携は時間をどのようにするかという問題がある。中学校では決められた時間の中で生徒は部活動も行う。小・中の交流はできてきたが、中学校が地域に出向いて何かする時間の確保はとても困難ではないか。	2
33	地域の中の中学生、地域の力、19歳になるまでを考える必要がある。	2
36	必ずしも住民自治協議会は学校教育に目が向いていないところがある。	2
37	住民自治協議会にはPTAも入っている。PTA役員は働く世代でとても忙しい。PTA活動を住民自治協議会がどのようにサポートするのかを考えていかないと、学校という施設・団体だけに目がいってしまう。	2
42	育成会が複数校にまたがるので調整が大変という課題はどこでも同じだし、小学生が中学校への理解を深めるため行う行事は全市で一斉に行えば解決すると考える。	3
45	地域については、地域の広がり・つながり方(長野市の場合、中山間地域と市街地)で違いがあり、これは一度に整理がつかない。特に市街地の地域はきちんとしたコミュニティではなく、緩やかなつながりを模索していく方法もあるのではないかと。例えば「学校群」という考え方の中で一つの方向性を出していかれたらよい。	3
47	長野市では、都市部と中山間地では児童生徒の状況が違い、市として支援すべき内容が違う。	3
49	子どもを18歳まで育てていく具体的な姿が、都市部と中山間地で全く違ってくる。その辺の考察も必要ではないか。別々の形で解決していかなければならない。	3
52	学校は無くしてほしくないというのが地元の総意である。	4
53	地域をあげて学校を支援していくのが、学校運営委員会を通じたコミュニティスクールの姿ではないか。	4
54	これからの学校支援は、学校運営委員会、コーディネーターが中心になる。行政型のコミュニティスクールではなく、地域住民の考えを中心にしたコミュニティスクールでなければならない。	4
55	コミュニティスクールについて、地域といった時に、小・中学校が同じ地域にある場合や小学校同士が近くにあり同じコミュニティという場合は、一緒に取り組んだ方がいいのではないかと。	4
56	全ての中山間地域がスクールバスで通学となれば、地域に核となる学校がなくなってしまう。	4
61	地域ができる様々なこと、公民館の活動等に取り組んでいくことが、コミュニティスクールの原点になる。	4
62	コミュニティスクールは、あくまで学校の指導内容の範囲で地域の人ボランティアという形で行わないと、先生方は難しいと思う。学年による指導内容の違いを地域の人にどう理解していただくかが難しい。	4
63	若い親が子ども達と一緒に勉強する気持ちにならないと、コミュニティスクールは形になっていかない。	4

No.	意見(抜粋)	委員会
72	小規模校と適正規模校とは、ある程度区別して検討していただきたい。	6
80	私の地区は住民同士が芋井地区と交流している。今年は住民の交流から子ども達の交流に広げたい。	6
84	小規模校は地域に密着した学校なので大きなメリットがある。	6
86	希望校に進学するため塾に通うということが当たり前になっている。塾や予備校は街中に多くあり、そこに通いたいと思いつながら、通えない子ども達が小規模校には多くいると思う。学校以外での教育のギャップが大きくなるを感じる。	6
88	小規模校にもメリット・デメリットがある。重要なのはデメリットを解消する手段があるかということ。子ども達にとってデメリットを解消する手段を少しでも考えてあげたい。	6
100	小規模校を抱えている地域では、小・中学校を中心に地域が成り立っている。そのような観点からも考えなければならない。それぞれの地域には文化、歴史、そういう大きなものがある。	6
101	地域で育った学力、地域で学んだ団体行動などは、社会人となって必ず生きてくる。	6
102	長野市の学校制度を均一にするという訳ではない。自分の地域の小・中学校の教育をどうするかということ地域の人に考えていただくことが重要だ。	6
110	小・中学校は色々な面で地域の核となっている。人任せでなく、地域の人を中心となり、自分達の地域をどうつくり、どう育てるのかをもう一度整理して話し合い、総合的に考えていくことが大切だ。	7
112	活力ある学校をどう考えるのか。高齢化が進む中で地域を元気にするのは子どもの声だ。小学校の運動会にはたくさんのお年寄りが来る。子どもから元気をもらうということが必要だ。	7
113	学校のことだけを取り上げるのではなく、地域の中の学校という面でも検討すべき。	7
114	地域の文化や伝統を経験させることは子どもにとっても必要だ。これも教育であり、経費をかける必要もある。都市部の市民の理解が不可欠。市民に対し十分に説明する必要がある。	7
116	課外活動で学ばせる必要があるなら外部指導者を雇えばいい。費用は掛かるが、子ども達がやりたいことを学校で学ばせるのは大切だ。地域がどんな形で子供たちに寄り添えるのか考えなければいけない。	7
117	地域の指導者は子ども達に教えるだけでなく、子ども達と一緒に学ぶというのがこれからのあり方だ。	7
123	地域の活動で、先生から頼まれた時に、資材、技術、歴史、あらゆる面ですぐに対応できるようにすることが必要だ。これは学校のためではなく、地域の財産として復活させることだと考え、取り組みたい。	7
127	先生方と保護者の努力の間に子どもがいる。地域の大人もそこに入り、先生・保護者・地域の三角形をつくっていただきたいと話したところ、保護者の表情がとても良かった。登下校の問題にしろ、地域として考えることは大切だ。	7
129	地域の方のサポートがあると保護者としてとてもありがたい。	7
131	授業参観、PTA総会、校長講話、学級懇談の間の託児支援を、今まで学校の職員が行っていたが、昨年度より地域の方にやっていたらいい。そういう意味で地域の方々が学校にどう関わっていただければ、今後、重要な鍵になる。	7
140	どこまで各地域に自由度を与えるかということが重要で、よくできた政策があればその地域に任せられるのではないかと個人的には考える。	8
141	複数のモデルの中から自分の地域にあったモデルを選び、さらに地域に合う形に変えて運用していくことが理想だと思う。地域がばらばらになってしまうということもあるので、しっかりと、学校群同士の連携や都市部と山間地がつながった連携など、しっかりと連携をさせる必要はあると思う。	8
142	学校が立地している条件、先生方の体制、組織運営の問題など、それらをいかにして子どものために活かすかということは、最初に形があるのではなく、地域から形づくるのがまず大事であると感じた。	8
143	学校の先生方、地域の私たち、地域の中でのPTA、それぞれの立場で今置かれている学校の課題は何なのか、自分たちができることは何なのか、私たちが望む学校はどういうものなのか、そのようなことをやるべきだと学ばせていただいた。	8
144	学校と直接話し合う場と、学校と一定の方向を持ちながら一緒に話し合う場がいくつかあると思う。このような組立てをしていかないと、先生のお話が活かされないと思う。	8

D 地域・保護者との関わり

《② 意見の集約》

D 地域・保護者との関わり

No.	意見(集約)	抜粋意見No.
(35)	<u>小規模校を抱えている地域では学校を中心に地域が成り立ち発展している。地域には文化、歴史、そういう大きなものがあり、地域の文化や伝統を経験させることは子どもにとっても大事なことではないか。</u>	6、100、114
(36)	<u>地域に根ざした学校をつくるのが、活力ある学校づくりには一番であるとする。地域で育った学力、地域で学んだ団体行動などは、社会人となって必ず生きてくる。地域の中の子ども、地域のか、19歳になるまでを考える必要がある。</u>	10、33、101
(37)	<u>地域をあげて学校を支援していくことがコミュニティスクールの姿であり、公民館の活動など、地域ができるいろいろなことに取り組んでいくことが、コミュニティスクールの原点ではないか。</u>	11、53、54、61
(38)	<u>高齢化が進む中で地域を元気にするのは子どもの声である。子どもの元気は学校だけでなく地域の活力にもつながっている。学校は色々な面で地域の核となっている。学校が地域に影響を与えている状況を踏まえ、地域の中の学校という面でも検討すべきではないか。小規模校は地域に密着した学校なので大きなメリットがある。地域の核となっている学校は無くしてほしくない。</u>	16、17、52、56、84、110、112、113
(39)	<u>地域については、広がり・つながり方(中山間地域と市街地など)の違いをはじめ、地域的な違いも考慮して、小・中学校が同じ地域にあるきちんとしたつながりばかりでなく、緩やかなつながり、例えば「学校群」というまとまりも考えたかどうか。</u>	20、24、45、47、49、55、72、86、102
(40)	<u>地域的な違いもあるので、複数の学校群のモデルを用意して、それぞれの地域に合った学校群を考えたり、学校群同士のつながりも図りたい。</u>	20、24、47、49、72、102、140、141
(41)	<u>意欲や態度の学力が育っていれば、大人になって生きていく力は身に付く。それは、学校の教室の中ではなく、いろいろなコミュニティの中で蓄えられるものだと思う。</u>	23
(42)	<u>市街地の小規模校では、日常の学校の学習を地域に開いて、学習の中でつながりを模索していかないと活力にもつながりにくい。</u>	30
(43)	<u>中学校における地域との連携は、時間をどのようにするかという問題がある。中学校では決められた時間の中で生徒は部活動も行う。小・中の交流はできてきたが、中学校が地域に向いて何かする時間の確保は困難ではないか。</u>	31
(44)	<u>住民自治協議会は必ずしも学校教育に目が向いていない。住民自治協議会がPTA活動をどうサポートするかを考えていかないと、学校という施設・団体だけに目が向いてしまう。</u>	36、37、144
(45)	<u>子ども達にとってデメリットを解消する手段を少しでも考えたい。小学生が中学校への理解を深めるための行事を全市で行えばどうか。</u>	42、88
(46)	<u>コミュニティスクールは、あくまで学校の指導内容の中における地域のかのボランティアという形で行っていかないと、先生方は困惑してしまう。学年による指導内容に合わせて地域のかと協働していく必要があるのではないか。</u>	62
(47)	<u>地域の指導者は子ども達に教えるだけでなく、子ども達と一緒に学ぶことがこれからのあり方であり、若い親御さんも子ども達と一緒に勉強することが必要ではないか。</u>	63、117
(48)	<u>地区の住民同士による交流から子ども達の交流に広げたい。</u>	80
(49)	<u>人任せでなく、地域のかを中心となり、自分達の地域をどうつくり、どう育てるのかをもう一度整理して話し合い、総合的に考えていくことが大切ではないか。</u>	110
(50)	<u>先生・保護者・地域の三角形をつくっていききたい。地域がどんな形で子ども達に寄り添えるかが大事で、地域のか々が学校にどう関わっていたか、今後、重要な鍵になる。</u>	116、127、131、142、143
(51)	<u>地域活動に係ることを学校の先生から頼まれた時、資材、技術、歴史、あらゆる面ですぐに対応できるようにすることが必要だ。これは学校のためではなく地域の財産を復活させることだと考えている。</u>	123
(52)	<u>地域のかのサポートがあると保護者としてとてもありがたい。</u>	129

D 地域・保護者との関わり

《③ 要点の整理》

D 地域・保護者との関わり

No.	要点	集約意見No.
【地域との関わり】		
D47	小規模校を抱えている地域は学校を中心に地域が成り立ち発展している。地域の文化・伝統を子どもに経験させることは必要	(35)
D48	地域に根ざした学校をつくることが、活力ある学校づくりになる	(36)
D49	地域で学んだ学力等が社会人になったときに生きてくる	(36)
D50	地域をあげて学校が必要としている支援をすることがコミュニティスクールの姿ではないか	(37) (46) (51)
D51	地域の中の学校という面での検討も必要ではないか	(38)
D52	地域とのつながり方は、中山間地域と市街地などの地域的な違いも考慮する必要があるのではないか	(39)
D53	市街地では緩やかなつながりを模索する方法もあるのではないか【学校群をつくる】	(39)
D54	それぞれの地域にあった学校群を考えたり、学校群同士のつながりも図っていったらどうか	(40)
D55	生きる力は教室以外のいろいろなコミュニティとの関わりの中で育つものではないか	(41)
D56	小規模校は日常の学校の学習を地域に開くことが、学校の活力につながる	(42)
D57	中学校では地域との連携の時間をとる難しさがある	(43)
D58	地域で自分達の地域をどうつくり、育てるかを考えることが重要ではないか	(44) (49)
D59	子どもたちのデメリットを解消する手段として、小学生が中学校への理解を深めることを全市で行ったらどうか	(45)
D60	先生・保護者・地域の三角の関わり方を考えていきたい	(47) (48) (50) (52)

E 通学区と行政区

《① 意見の抜粋》

E 通学区と行政区

No.	意見(抜粋)	委員会
8	地域コミュニティの核というとき、地域をどの範囲と考えるかということがある。	1
34	市PTA連合会の集まりでも、一つの地域に一つの小・中学校、または複数の小学校と一つの中学校の場合は地域としてまとまっている。	2
43	学校の活力をどう捉えるのか、子ども達にとっての地域をどの範囲で考えるのか、この二点がポイントになる。	3
58	地域の範囲を考える時に、行政区と通学区を一致させていくべきだ。住民自治協議会が一つの学区を形成するような形で一致させることが大事であり、その中で、コミュニティ化、学校支援につながっていくことが必要だ。	4
121	通学区と行政区が一致しない、通学するところと住むところが違うのは、地域に根ざした学校、全てを含めた教育を考えると、可能な限り一体化していきたい。その中で地域が「俺たちの学校の子ども」という意識が生まれる。	7
122	地域として学校教育の問題を考えようと取り組んでいる。通学区と行政区を一体化させることは、通学の問題、交通の問題等、子ども達を育てていく面で大事な要素だ。地域が学校に入り込むのではなく、地域を活かす取組を行い、子どもが学校に行っている時以外は地域があるからいいんだというくらいに出来ないか考えている。	7
124	通学区と行政区が発展的に統合できればいい。また、地域の教育力を高めようという言葉の内容、方向、人材、組織を継続的に検討する必要があると考える。	7
125	行政区ごとに通学区ができると、学校に対するまとまった対策ができる。学校教育を支える行政区のあり方も必要だ。	7
126	大半の子ども達がこの通学区で、一部の子ども達が別の通学区であるというのは大変な難しさがある。この点を考える時期に来ているのではないか。	7
130	地域が重なりあった学校は、PTAの地域活動もなかなか一つにできない。通っている学校と住んでいる地域が離れてしまっていると一元化も難しい。	7
132	通学区と行政区の問題であるが、地域の伝統芸能に関する場合、子どもの集団がいくつかの地域に分かれてしまう。育成会も難しい問題がある。また、コミュニティスクールのトップの方をどの区の区長さんにするか等、調整が難しくなっている。できれば行政区を単位として通学区をつくって欲しいと感じる。	7
133	人口の動きにより学校をどう設置するかというルールをつくらないといけない。ルールをつくり、それに則ってやる必要がある。場合によっては学校の統廃合になるかもしれない。もともと通学区と行政区が一緒だったならば、通学区と行政区を一緒にすることを決めなくてはいけない。	7

E 通学区と行政区

《② 意見の集約》

E 通学区と行政区

No.	意見(集約)	抜粋意見No.
(53)	行政区ごとに通学区ができると、学校に対するまとまった対策ができるので、通学区と行政区が発展的に統合できればいい。もともと通学区と行政区が一緒だったなら、通学区と行政区を一緒にするべきではないか。子ども達の地域をどの範囲と考えるかを検討する必要があるのではないか。	8、43、124、125、133
(54)	市PTA連合会の集まりでも、一つの地域に一つの小・中学校、または複数の小学校と一つの中学校の場合は地域としてまとまっているが、地域が重なりあっている学校は、PTAの地域活動もなかなか一つにできない現状がある。	34、130
(55)	通学区と行政区を一致させることは、通学の問題、交通の問題等、子ども達を育てていく面で大事な要素であり、地域に根ざした学校を考えると、住民自治協議会が一つの学区を形成するような形で行政区と通学区を一致させていくべきである。その中で地域が「俺たちの学校の子ども」という意識が生まれるのではないか。	58、121、122
(56)	別々の通学区から通う子ども達がいる学級は、地域の伝統芸能に関する場合など、子どもの集団がいくつかに分かれてしまう。育成会にも同様の課題がある。行政区を単位として通学区を形成してほしいと感じる。	126、132
(57)	人口動態により学校をどう設置するかというルールをつくるべきであり、場合によっては学校の統廃合になるかもしれないがそれに則ってやる必要があるのではないか。	133

E 通学区と行政区

《③ 要点の整理》

E 通学区と行政区

No.	要点	集約意見No.
【地域との関わり】		
E61	行政区と通学区が一致していると、育成会活動や地域との連携が対応しやすい	(53) (54) (55) (56) (57)

F その他

《① 意見の抜粋》

F その他

No.	意見(抜粋)	委員会
9	アンケートは実施すると思うが、小規模校に通っている子ども達が、メリット・デメリットといったことを本当に感じているのか。	1
12	児童生徒の気持ち大切に話があったが、教員がどのように考えているのかも大切だ。	1
13	小規模校を卒業した高校生や20歳くらいの方が社会に出たときに、どのようなメリット・デメリットがあったのかが分かると、社会に出る前にどうしたらよいのかが分かる。	1
15	社会人になったくらいの人たちがどう考えているのかが分かれば参考になる。	1
83	移動方法は小規模校の子ども達にとってはとても重要なこと。是非とも考えていただきたい。	6
96	スクールバスやタクシーで通学している子どもが現実には沢山いる。小規模校をまとめた広いエリアで輸送を考えればよい。	6
134	改革はきちんとした組織をつくってやっていただく必要がある。事務局として継続的にやっていただけると、市でもなく校長会でもない、中間的な組織が必要。毎年、住民自治協議会などは人が替わってしまうので、学校と地域の中間に位置する事務局のようなものがあれば良い。	7

F その他

《② 意見の集約》

F その他

No.	意見(集約)	抜粋意見No.
(58)	小規模校の児童生徒や卒業生、教員は小規模校をどのように考えているのか。	9、12、13、15
(59)	小規模校の子どもの通学方法を考えることも重要ではないか。	83、96
(60)	改革するためには、学校と地域の中間に位置する事務局が必要ではないか。	134

F その他

《③ 要点の整理》

F その他

No.	要点	集約意見No.
【発達段階に応じた学びを実現するための規模】		
F62	小規模校の児童生徒や卒業生、教員は小規模校をどのように考えているのか	(58)
F63	小規模校の子どもの通学方法を考えることも重要ではないか	(59)
【地域との関わり】		
F64	改革するためには、学校と地域の中間に位置する事務局が必要ではないか	(60)